

〈第6期〉 す こ ら

じんけんSCHOLA

～JR大阪駅前『人権知』を学ぶ～
(大阪駅前第2ビル 6階)

◆シンポジウム 8月22日(土) 13:30-16:30 (受講会費 1,500円)

部落問題の現在(いま)をどう考えるか

1990年代に入ると、都市の部落では経済的安定層の流出が増え、以前からみられた不安定就労者の流入と相まって、新たな「貧困化」が明らかになってきました。また今、都市の部落では一般向け公営住宅となった旧改良住宅への流入世帯が増加するとともに、分譲住宅も建設され、新しい住民が入ってきています。農村地域では若年層が流出し、高齢化が進行することで、消滅寸前の部落も多くみられるようになってきました。このように、部落というコミュニティは、大きく変容しているのです。一方で、一般社会の部落観には、変化も見られますが、古くからの意識が強固に残っていることも報告されています。こうした部落および部落差別の現在をどうみるか。そして、これからの部落問題の解決方法や教育はどうあるべきなのか。長く部落解放運動にかかわってきた住田一郎さん、歴史から部落をみてきた上杉聰さん、部落の現状研究を続けてきた石元清英さんとともに考えていきます。

「全国水平社結成 90 余年の成果に立った部落解放運動における当事者責任」住田一郎(部落解放同盟大阪府連住吉支部)
「歴史から見る部落差別の現状と予測」上杉聰(大阪市立大学)
「部落の変容と一面的な部落観」石元清英(関西大学)

◆フィールドワーク 10月4日(日)京都、11月15日(日)大阪 |またはJの受講者に限定。3,000円

石元清英・上杉聰と行く～京都／光と影のフィールドワーク 10月4日(日) 9:00-16:00

杉田玄白より15年も早く、部落の人の手を借りて解剖をした山脇東洋の記念碑を起点に、京都市内にある腑分け、キリシタン弾圧、秀吉の朝鮮侵略などに関わる史跡を巡ったあと、東七条部落を訪れます。

上杉聰と行く～大阪／光と影のフィールドワーク 11月15日(日) 9:00-16:00

ハルカス～旧非人村～飛田遊郭～釜ヶ崎～浪速部落をめぐり、600年間を往復する時間旅行です。

◆講座「障害者の人権」 10月17日(土)、11月14日(土)

出生前診断が広がる社会とは？

命の選別につながる出生前診断を通じて、教育、社会の抑圧、原発などの問題を共有し、誰もが歓迎され、共存できる社会のあり方を考えます。

複合差別とは？～多様な立場からおこる生きづらさ～

女性障害者の現状と課題、そして国内法の整備とあわせて国外の動きを知ることで、複合差別を捉えていきます。

◆講座「非営利組織の知識経営」 11月21日(土)

非営利組織の経営のあり方を、経営学の最新理論である「知識経営」の視点から考え、役立てていただきたいと思います。

会場：大阪市立大学 文化交流センター(大阪駅前第2ビル 6階)

じんけんスコラ

検索

<http://j-schola.net/>

A 人権とはなにか？— 哲学の視点から —

土屋 貴志 (大阪市立大学)

「人権」とはそもそもどういうことでしょうか？「人権」を掲げなければ差別とたたかえないのでしょうか？また「人権」を掲げさえすれば、どんな差別ともたたかえるのでしょうか？「人権」が「人の権利」だとしたら、「権利」とはいったいなんなのでしょうか？「人」とは誰のことでしょうか？わたしたちが当たり前のように使っている「人権」について、哲学の視点から、あらためて考えてみます。

- 1 お互いの人権を侵害しないという約束～社会契約 8月29日(土) 13:00-15:00
- 2 国とはなにか～憲法の役割 9月5日(土) 13:00-15:00
- 3 人権論の限界 9月12日(土) 13:00-15:00

B 医療と人権— 胃ろうを倫理学する —

土屋 貴志 (大阪市立大学) 10月24日(土) 10:00-12:00

口から食べられなくなった人が生き続けるためには、お腹の皮膚から胃に管を通す「胃ろう」をつくって直接胃に水分や栄養を補給するなどの方法をとらなければなりません。ですが、重度の認知症などのため本人が「胃ろう」をつくるかどうか決められないとき、誰が、どうやって、決めたらいいのでしょうか。また、本人が意思決定できない状態のまま生き続けることには、どんな意味があるのでしょうか。こうした問題を通して、医療における人権について考えます。

C ジェンダーとセクシュアリティ～性をとおして考える人権～

宮前 千雅子 (関西大学)

人間の性は多様で、かつ複合的に構成されています。しかしながら、現在の社会では赤ちゃんの洋服から子どもたちの使う学用品やテレビ番組までもが男女に二分され、異性愛を自明視した小説やドラマ、映画であふれています。本講ではそれらに込められた「人間の性はふたつで、それらはまったく異なったもの」、「女は女らしく」、「男は男らしく」、「女と男が愛し合うのが自然」といった性の二元論や異性愛至上主義を分析することにより、性のあり様を探っていきます。性を考えることは、まさに自らの生を捉えかえすことであり、人権を考えることにほかなりません。

- 1 性と生を考える—ジェンダー入門 10月31日(土) 10:00-12:00
- 2 セクシュアル・マイノリティについて—性の多様性と可変性 11月14日(土) 10:00-12:00
- 3 セクシュアル・マイノリティについて—権利の保障を考えよう 11月28日(土) 10:00-12:00
- 4 セクシュアル・マイノリティについて—ゲストスピーカーの声から学ぶ 12月5日(土) 10:00-12:00

D 障害者の人権

藤原 久美子 (神戸 Be すけっと)、寺田 さち子 (神経筋疾患ネットワーク)、矢野 恵子 (あやかぜ)

1 出生前診断が広がる社会とは？ 10月17日(土) 10:00-12:00

様々な文化、背景、価値観を持った生き方が多ければ多いほど、誰もが安心して居られる成熟した社会となります。しかし現状は、歓迎される命と歓迎されない命とを分けようとする社会の状況が加速して進み、その選択は個々の女性や家族の問題ととらえられがちです。命の選別につながる出生前診断を通じて、教育、社会の抑圧、原発などの問題を共有し、誰もが歓迎され、共存できる社会のあり方を考えたいと思います。

2 複合差別とは？～多様な立場からおこる生きづらさ～ 11月14日(土) 15:30-17:30

複合差別とは、その人が持つ様々な背景が複雑にからみ合っておこるものです。女性障害者だけでなく、性的マイノリティ、高齢者、子ども、在日外国人等々、もちろん障害のない人にも起こり得るものです。ここでは女性障害者の現状と課題、そして国内法の整備とあわせて国外の動きを知ることで、複合差別を捉えていきます。

E 子どもの多様性を原理とするインクルーシブな学校づくりを考える

堀 智晴 (元大阪市立大学) 10月10日(土) 13:00-15:00

インクルーシブ教育の原理は、多様性です。どんな子ども共に生きていこう、共に学びあおうという教育です。ですから障害のある子ども<共に>です。しかし、今の学校は多様性を認めず、<変な子>だと言って教室や学校から追い出します。誰が変なのでしょうか。どの子どもユニークなのではないのでしょうか。ユニークさを認めあい助けあえるユニークな学校が必要です。そのようなインクルーシブな学校づくりを、講座参加者もユニークさを発揮して考えあいましょう。

F たかじん騒動から考える在日コリアンの出自に関する諸問題

朴 一 (大阪市立大学) 9月30日(水) 18:00-20:00

2014年1月、タレントで歌手のやしきたかじんが亡くなった。人気タレントであったため、たくさんの追悼番組が放送されたが、彼の謎につつまれた生い立ちに迫る番組は放送されなかった。だが、出版界ではたかじんの出自やおいたちに迫った書籍が何冊か出版され、さまざまな波紋をよんだ。たかじんはなぜ自らの出自について語らなかったのか。死後沸き起こったたかじん騒動の中で見えてきた在日コリアンの出自の問題とは何か、この講座では、ベストセラーになった角岡伸彦「ゆめいらんかね」、百田尚樹「殉愛」、家舗渡他「殉愛の真実」などの文献をたたき台に、在日問題の本質について考えてみたい。

G 「ヘイトスピーチ」の何が問題なのか？

中村 一成 (フリージャーナリスト)

ヘイト・スピーチ。多くのメディアでは「憎悪表現」と直訳され、何か「過激」で「下品」で「大音量」のデモ行為を指すかのごとき印象を与えていますが、それは問題の「切り縮め」です。本講座では問題を歴史的、構造的に捉え直し、「即自的暴力」であり「社会的不平等を固定、拡大」させ、「更なる暴力を誘発」するヘイト・スピーチの実態と害悪について提示した上で、具体的な事件に即し、その対応策を考えます。

- 1 「ヘイト・スピーチ」とその害悪 9月26日(土) 15:30-17:30
- 2 京都朝鮮学校襲撃事件から見た課題 10月3日(土) 15:30-17:30

H 都市大阪の階層構造

島 和博 (大阪市立大学)

- 1 都市大阪の貧困と不平等の構造をみる 10月17日(土) 13:00-15:00
- 2 大阪市内同和地区の現況を分析する 10月24日(土) 13:00-15:00

都市大阪における貧困と不平等の空間的な分布を、複数の官庁統計データをもとに、まず全体的に明らかにします。そのなかで、(旧)同和地区に着目し、30年以上にわたって実施された「同和行政」がどんな「成果」をもたらしたか、そして今どんな課題に直面しているか、最新データをもとに解明と分析を試みます。

I 部落の現在(いま)をどう教えるのか～同和教育再考～

石元 清英 (関西大学)

「暗い」「貧しい」「閉鎖的」。多くの大学生が部落に対してこうしたマイナスイメージをもっています。これは小中高での部落問題学習の経験の有無に関係ありません。高校までに部落問題について習ったことがあるという大学生も、部落に対して実態とはかけ離れたイメージをもっているのです。この講座では、これまでの同和教育を検証し、大きく変化した部落の現在をどう教えていくべきか、考えます。

- 1 大学生の部落観 - なぜ大学生はマイナスイメージをもってしまったのか 9月19日(土) 13:00-15:00
- 2 同和教育は何をしてきたのか - 部落差別はどう語られたのか 9月26日(土) 13:00-15:00
- 3 部落はどう変化したのか - 部落の現在をどう教えるのか 10月3日(土) 13:00-15:00

J いま学びなおす新しい部落史

1 いま学びなおす新しい部落史(中近世)(全5回) 上杉 聡(大阪市立大学) *10/3は10:00-12:00

①9月5日(土) ②12日(土) ③19日(土) ④26日(土) ⑤10月3日(土) ①～④15:30-17:30

なぜ教科書は、部落史の描き方を変えたのか？その意味と活かし方を、歴史学と教育学の両面から掘り下げます。DVDを使い、目からうるこの話題続出です(教科書は上杉『これでわかった！部落の歴史』解放出版社)

2 いま学びなおす新しい部落史(近現代)(全5回) 上杉 聡 *10/31、11/14、は10:00-12:00

①10月10日(土) ②17日(土) ③24日(土) ④31日(土) ⑤11月14日(土) ①～③15:30-17:30

部落差別は、なぜこれまで残ったのか、廃止令(「解放令」)へとさかのぼり、新作DVDを使用し、原因を究明します。戦後憲法の意義と展望は必聴の講義です(教科書は上杉『これでなっとく！部落の歴史』解放出版社)

K ハラスメントをなくすには

御興 久美子(NPO アカデミック・ハラスメントをなくすネットワーク)

1 パワハラ、アカハラ～海外の状況 10月3日(土) 10:00-12:00

外国の職場や大学におけるノンセクシュアル・ハラスメントの現況と対策について文献を読み解きます。

2 パワハラ、アカハラ～日本の状況と対策 10月10日(土) 10:00-12:00

日本の職場や大学におけるノンセクシュアル・ハラスメントの発生状況と対策について概説します。

3 学校、大学からアカハラをなくすために 11月21日(土) 13:00-15:00

教育の場からハラスメントをなくすためにはどうすればいいのか、有効な防止対策について考えます。

L 非営利組織の知識経営

川村 尚也(大阪市立大学) 11月21日(土) 15:30-17:30

教育・文化・医療・福祉・環境保護などの分野で一層の活躍が期待されているNPO・NGOやボランティア団体、公益法人など「非営利組織」の経営のあり方を、経営学の最新理論である「知識経営」の視点から、みなさんと一緒に考えたいと思います。

M 原発と人権

伊藤 宏 (和歌山信愛女子短期大学)

この講座では、講師が各回のテーマに沿った話題提供をした後、ゼミ形式で参加者によるディスカッションを行い、原発と人権をめぐる問題を様々な角度から検討し、問題意識を深めます。その上で、福島第一原発事故後の社会がどうあるべきか、私たちがどのように向き合っていけばよいのかを考えていきたいと思ひます。

1 4年目を迎えた福島第一原発事故 8月29日(土) 10:00-12:00

福島第一原発事故の最新の状況を報告するとともに、4年目になって事故の影響はどうなっているのかを検証します。避難の現状、農林水産業の現状、健康被害の現状など、原発事故がもたらした社会的な影響について、私たちがどのようにとらえ、何ができて、何をしていけばよいのかを考えていきます。

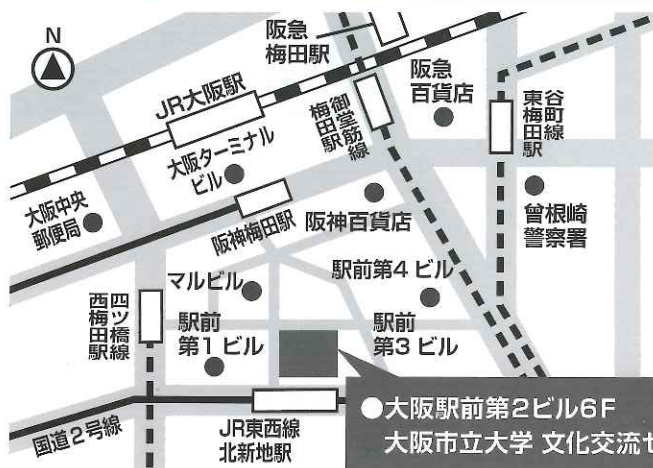
2 原子力報道の検証 9月12日(土) 10:00-12:00

事故後の社会を生きていく上で、私たちにとって原発、特に放射能汚染に関する情報は必須のものです。その多くを、私たちは様々なメディア、特に新聞やテレビ、インターネットから得ているわけですが、そこにどのような問題点があるのかを検証します。また、おびただしい量の情報があふれる中で、私たちがどうやって必要な情報を取捨選択していけばよいのかを考えていきます。

3 原発と私たちの暮らしとの関わり 9月26日(土) 10:00-12:00

原発問題は決して立地市町村だけの問題ではありません。実際に私たちの暮らしとどれだけ密接に関わっているかを、主に食とエネルギーの問題から検証します。巨大大事故を経験した私たちに、これからどのような未来が待っているのかを予測しながら、私たちに求められる判断や対応について考えていきます。

じんけん SCHOLA 会場へのアクセス



●大阪市立大学文化交流センター (駅前第2ビル6階)

最寄り駅はJR東西線「北新地」駅
地下鉄「梅田」、「西梅田」、「東梅田」駅
阪急・阪神「梅田」駅、JR「大阪」駅

*文化交流センターの「大セミナー室」または「小セミナー室」を使用します。

受講会費：1回 1,500円

●学生・院生は500円、高校生以下は無料です。

じんけん SCHOLA 受講申し込み方法

受講の申込は、別紙の申込用紙をファックスするか、メールをお送りください。受付は申込順となります。メールの場合は、受講を希望する講座名と、受講者の氏名、所属、電話番号、郵便物送付先を記入してください。

メールアドレス jinken.schola@gmail.com

申込後に、郵便振替またはゆうちょ銀行への振込で受講料をお支払いください(振込手数料はご負担ください)。これで申込完了です。振込確認後、数日以内に受領書を郵送します。振り込み後の返金はいたしませんので、ご了承ください。他講座への振替受講は、事前にご連絡いただければ可能です。

郵便振替 00900-0-254830 市民のための人権大学院運営協議会

ゆうちょ銀行 店名四一八(店番418)普通 口座番号：1113880

主催：市民のための人権大学院運営協議会

後援：大阪市立大学人権問題研究センター、国際人権大学院大学(夜間)の実現をめざす大阪府民会議、大阪市・大阪市教育委員会、大阪府・大阪府教育委員会*、関西大学人権問題研究室

*府・府教委による後援は大阪府内での行事に限られます。

市民のための人権大学院 運営協議会 〒530-0044 大阪市北区東天満2-9-4 千代田ビル東館507
アカデミックNPO事務局(NAAH)内
TEL 06-6353-3364 FAX 06-7878-6064 メール jinken.schola@gmail.com <http://j-schola.net/>

*当協議会へのご連絡は、なるべくメールまたはファックスでお願いします。(スタッフは常駐していません)